

松嶋夜話 卷之下 21

〔原文〕先師茶話次余侍側攤直道錄

〔訓読〕先師の茶話の次、余側に侍りて直道録を攤（ひら）く

※直道録…（明釋）株宏撰

〔原文〕依誦於蓮池大師未出家時泐輿人上元日致香於吳山三官廟見書於中堂邵堯夫詩曰

〔訓読〕依りて蓮池大師未だ出家せず時、輿人に泐（そ）ひて、上元の日、香を吳山の三官廟に致して、中堂に邵堯夫の詩を書するを見るを誦へて曰く

※蓮池大師…明、杭州雲棲寺の僧。名は株宏。又雲棲大師と稱す。蓮宗の第九祖。俗姓は沈。初め儒を業とし、後僧となる。清の雍正中、淨妙眞修禪師の號を賜はる。

※邵雍（大中祥符二年二月五日（1012年一月二日）－熙寧10年7月5日（1077年7月27日））…中国北宋時代の儒学者。字は堯夫。百源先生・安樂先生と称された。諡は康節。

〔原文〕毎日常晨一炷香謝天謝地謝三光

〔訓読〕毎日の清晨、一炷の香、天に謝し地に謝し三光に謝す

〔原文〕爲求處處田禾熟惟願人人福壽長

〔訓読〕爲に處處の田禾熟せんことを求め、惟だ人人の福壽長からんことを願う

〔原文〕國有忠臣扶社稷家無逆子惱爺孃

〔訓読〕國に忠臣社稷を扶くる有り、家に逆子の爺孃を悩ます無し

〔原文〕四方平定干戈息

〔訓読〕四方平定して干戈息む

〔原文〕我若貧時也不妨

〔訓読〕我若し貧なる時にや妨げず

〔原文〕先師見得錄此篇與左右令背諷謂曰

〔訓読〕先師此の篇を録するを見得て、左右に與へて背諷せしめて、謂ひて曰く

〔原文〕且造神祠詣佛堂攘災望福祝願祈禱者謹而作如是之心

〔訓読〕且つ神祠を造り、佛堂を詣で、災いを攘ひ福を望み祝願祈禱する者の是の如くの心を作すは

〔原文〕整日雖禱願有何之不可

〔訓読〕整日禱願すと雖も、何の不可なること有らん

〔原文〕汝輩應作是念

〔訓読〕汝輩應に是の念を作すべし

〔原文〕某尔時誦此詩

〔訓読〕某、尔の時、此の詩を誦し

※某は其？

〔原文〕耳先師之言心中感發

〔訓読〕先師の言を耳（き）いて心中感發す